ホテル・ブライダル業界を志望する学生のコロナ禍での変化

――進路とモチベーション――

Forecasting the Change in Students Seeking to the Hotel and Bridal Industry

――Career Path and Motivation of the Students――

齊藤　彰

SAITO Akira

ホテル・ブライダル業界を志望する学生のコロナ禍での変化
――進路とモチベーション――

Forecasting the Change in Students Seeking to the Hotel and Bridal Industry
――Career Path and Motivation of the Students――

齊藤　彰
SAITO Akira

要旨：2020年初頭に新型コロナウイルスの感染拡大を受け、全国の小中高及び特別支援学校に臨時休校を要請する考えが示された。その後も国内の感染者数増加をうけ、全国一律の緊急事態宣言下では、学生は遠隔授業を余儀なくされた。もちろん中学、高校時代に実施予定の修学旅行などは延期、中止された。将来の目標を見つけるための活動が制限されたことにより、ホテル・ブライダル業界を志望する高校生の志望動機はどのように変化するのか。高校生の進学理由、将来像の持ち方を考察しながら、業界の課題を考える。
キーワード：ホテル、ブライダル、人材育成、ホスピタリティ業界の課題

1．はじめに

学生が進学を意識する際に、その志望理由を大きく左右するファクターのひとつに過去の経験が挙げられる。ホテル・ブライダル業界へ進む者も例外ではなく、幼少期から高校時代までの経験が職業選択につながることが多い。修学旅行で利用した宿泊施設での経験、親戚の結婚式に参加した際の経験、観光地を巡る際に同行してくれた添乗員の話など、理由は様々だが入学時の面接試験、入学後の面談で同じような志望動機を耳にする。

しかし、2020年の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、生活環境が大きく変化した。この

ことでこの状況は変わるのであろうか。旅行が制限されれば宿泊施設のスタッフを目にする機会が減る。結婚式が中止、延期、縮小化されるのであれば結婚式、披露宴パーティに出席する機会が減る。これらにより学生の進路や志望職種への動機は何らかの形で変化すると思われる。

2020年２月27日、安倍晋三元首相が新型コロナウイルス感染症対策本部で、全国の小中高、及び特別支援学校に臨時休校を要請する考えを表明し[1]、３月２日から小中高などの一斉休校を要請するとした。実際に休校するか否かは学校や地方自治体の判断するところではあったが、大学においても急な休校要請に、卒業式、入学式をはじめ新学期に向けての対応を模索した。当初２週間を目安にしていた休校措置ではあったが、休校宣言の後も国内の感染者数は増加を続け、同年４月７日に７都府県で緊急事態宣言が出された。同月16日には全国一律の緊急事態宣言となり、休校措置が延期されることとなった。教育機関に関しては、「密閉空間で長時間過ごす教室は感染リスクが高い。水面下で感染者がいれば爆発的な広がりを招く恐れがある」という専門家の声により、対面での授業を自粛することとなった。もちろん、外出が自粛、制限されている中では修学旅行や家族旅行、結婚式や披露パーティは実施されていない。ホスピタリティ業界を目指すきっかけとなる活動が制限されたのである。つまり、旅行を通して、運輸業界ではキャビンアテンダントやグランドスタッフ、ホテル業界ではホテリエ、飲食産業ではレストランスタッフや調理スタッフ、アミューズメント業界ではテーマパークのスタッフやインフォメーションスタッフ等、将来の興味を感じる職業人と直接触れ合う機会が制限されていたということである。

このような状況下でも、継続してホスピタリティ業界の職種を希望して本学に入学してきている。しかし、この新入生に関してはそれまでの学生と比較して懸念する点が多くある。今後、このホテル・ブライダルや観光の経験値の少ない学生、客としての良い経験の少ない学生が、業界を志望し、さらに志望し続けるモチベーションを保てるのか。また、経験の中で出会うはずの良いイメージモデルのないままに、将来像が描けないままに就職への意欲を抱くことができるのか。

2020年４月から2021年３月まではコロナ初年度ということもあり、緊急事態宣言による行動制限、外出自粛措置が取られ、見えないウイルスの影響で結婚式は延期や中止を余儀なくされた。2021年にはコロナウイルスとの付き合い方も見えてきたことから挙式・披露宴件数が徐々に戻ってきてはいることは、埼玉女子短期大学紀要46号「ウエディング・ブライダル業界の近年予測――2021年度『ブライダル発表会』を振り返る――」[2]の中でも言及した。実際に結婚式実施率の変化からも結婚式の実施自体が中止や延期になり、出席の経験を得ることができない時期が１年半ほど継続したことになる。しかし結婚式への参加はある一定学年に限られるものではないため、出席が叶わなかった世代は絞ることは難しい。

そこで学生が関わる旅行を見てみる。公益財団法人日本修学旅行協会が発表している教育旅行年報「データブック」によると、図１、図２[3]の通りコロナ禍の修学旅行実施率に関しては大きく減少している。

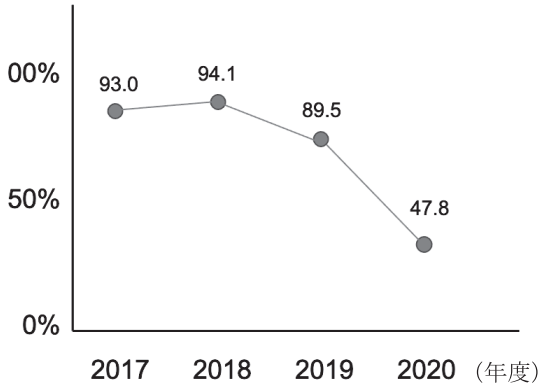

図１　中学校（国公立・私立）修学旅行実施率の年度推移

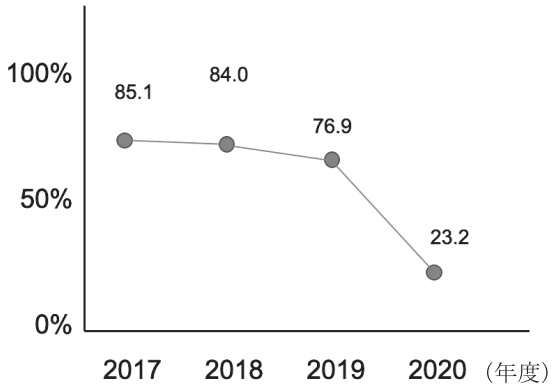

図２　高等学校（国公立・私立）修学旅行実施率の年度推移

また、同協会発表の実際数では、コロナ感染症拡大前の2019年度と2020年度では、図３、図４のように減少変化が見られ、特に中学校に比較して高等学校で実施数に大きな減少が見られる。

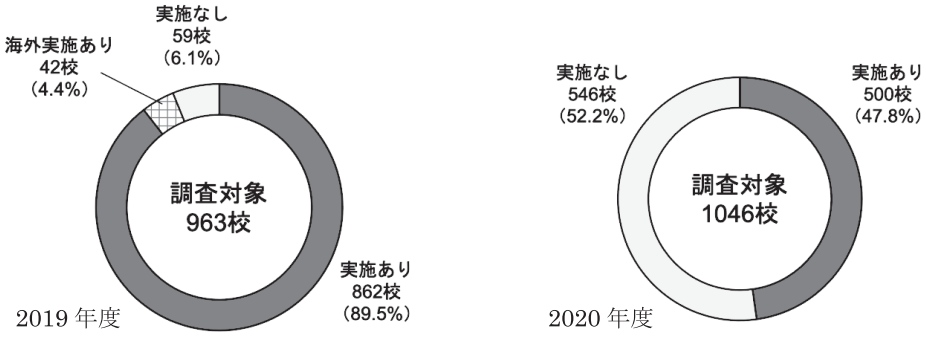

図３　中学校における2019年度と2020年度の修学旅行実施数の変化

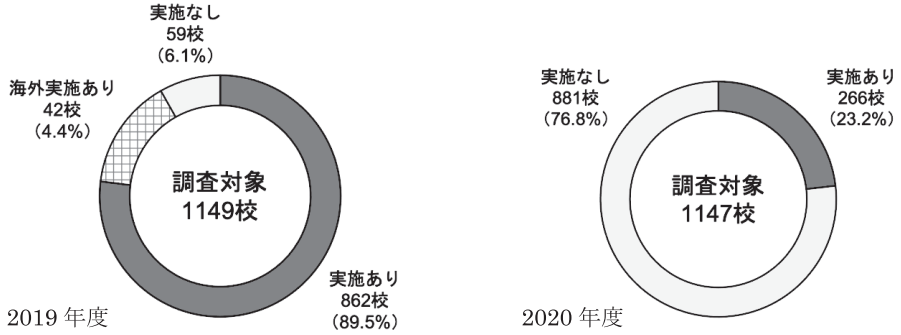

図４　高等学校における2019年度と2020年度の修学旅行実施数の変化

続いてコロナ禍前の修学旅行実施学年、実施時期を見ると、最近では中学校でも受験を意識して修学旅行を２年次に置いている学校も見られるようだが、中学校では国公立の85%以上、私立の90%以上が３年次に実施している。高等学校では、受験勉強で忙しくなる３年次を避け、国公立、私立を合わせて95%以上が２年次に実施している。また、図５、図６の実施時期を見ると、中学校では例年４月から６月に実施する学校が全体の75％だったのに対し、緊急事態宣言発令の影響もあり、コロナ禍では９月から12月までの実施が80％以上となっている。高等学校では、例年通り10月から12月までに実施されている。2019年度の終わりにあたる３月は新型コロナウイルス感染防止のため実施が見られないが、2020年度には実施時期に変更や再度の変更を余儀なくされた学校が年度内に実施を行なった結果３月の実施数も増えている。

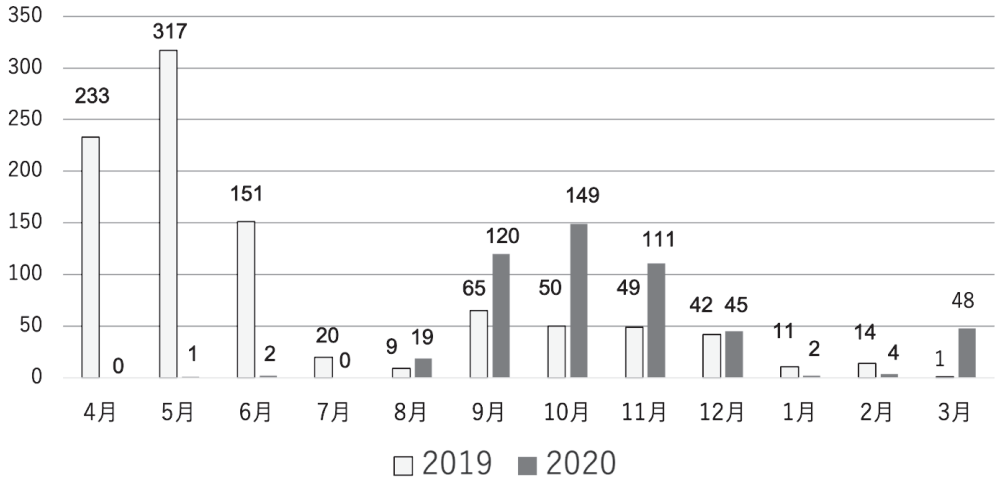

図５　中学校における2019年度と2020年度の修学旅行実施時期の変化

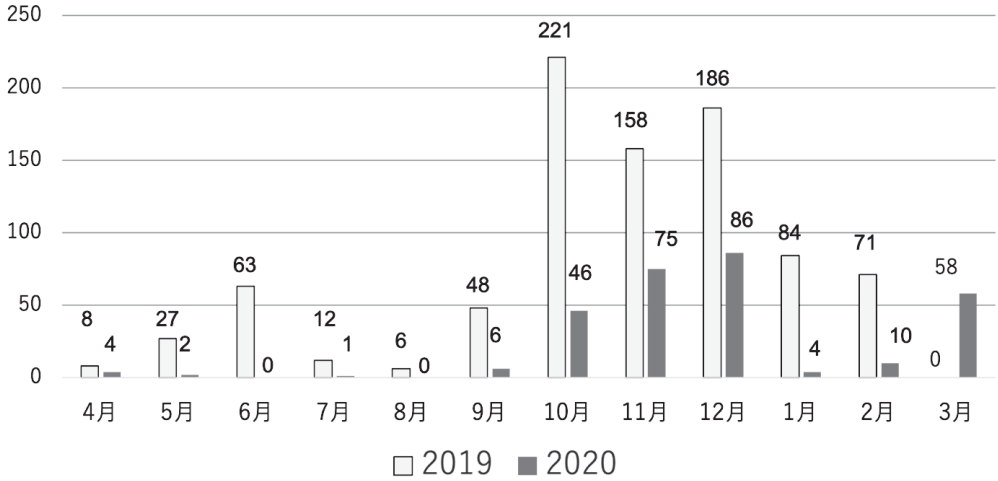

図６　高等学校における2019年度と2020年度の修学旅行実施時期の変化

以上から考えるとコロナ禍で影響を受けた世代（中学・高等学校で旅行を経験できていない世代）は、現在の中学３年、高校１年、高校２年、高校３年、短期大学１年、２年と言える。中学３年、高校１・２年生は今後修学旅行参加に期待が持てるが、2022年度高校３年にはまだまだ未経験の学生がいるということだ。

しかし先行研究では、コロナ禍で学生のホテル・ブライダル施設利用経験の有無については扱えない。コロナ禍に、ニューツーリズムやコロナ禍後の観光をテーマにしたもの等、観光に関す

る書籍は多く出版された。岸田文雄内閣総理大臣が2022年10月11日より全国旅行支援を開始した。同時に２年半ぶりに観光目的の入国が再開した。早速日本各地でインバウンドの旅行も回復が見られる。観光・旅行業界にとっては明るいニュースが続いている中、学生だけを追った資料が見られない。今回、ホスピタリティ業界、特にホテル・ブライダル業界を志望する高校生の進学理由と将来像の持ち方がどのように変化していくのかを考察していきたい。

２．アンケートからの考察

本稿の問題について正面から取り組んだ研究はまだ見られない。従って実際に、短期大学学生と専門学校学生にアンケート[4]を実施した。アンケート項目とその回収結果が表１である。

〈アンケート項目〉

Ｑ１．あなたが将来考えている、または内定した業界を教えてください（複数回答可）

①ホテル業界

②ブライダル業界

③レストラン業界

④婚礼衣装業界

⑤その他

Ｑ２．入学時にその職業を目指したきっかけを教えてください（複数回答可）

①幼少期の体験から

②小学～中学生までの経験から

③高校時代の経験から

④（高校の）先生の薦め

⑤家族の薦め

⑥友人の薦め

Ｑ３．職業を目指したきっかけを出来るだけ詳しく教えてください。

表１　志望の業界と志望理由

	短期大学在校生					専門学校生			短期大学卒業生	専門学校卒業生
履修コース	ブライダル	ホテル	ブライダル	ホテル		ホテル			ブライダル	ホテル・ブライダル
学年	1年	1年	2年	2年		1年	2年			
回答者数	18	13	21	19		31	3		12/77	13/87
①入学時の志望業界										
業界	15	11	18	12		31			12	13
その他	3	2	3	7		3			0	0
②志望理由（複数回答可）										
幼少期の経験			2	0		4			1	2
小学～中学生までの経験から	7	5	7	5		11			2	5
高校時代の経験から	7	5	7	7		16			8	5
先生の薦め，家族の薦め	2	0	5	5		7			1	3
その他	6	3	0	4		2			0	2
③理由の詳細（複数回答可）										
結婚式に参加して	5	3	9	0		0			5	2
ホテルを利用して	0	2	0	10		15			0	5
高校までのアルバイト・インターン	2	3	3	1		4			1	3
授業や話を聞いて	4	1	2	4		2			3	0
SNS・インターネット	1	2	1	0		4			0	0
テレビ・映画・資料	0	1	0	1					2	3
自分の性格などから	4	3	5	3		7			2	3
その他	0	1	0	2		3			0	0

２．１　学生はモチベーションを保ちながら業界を志望し続けるのか

表１のアンケート結果から、短期大学学生は、１年生では業界志望者が回答者の多くを占めている。２年生は就職活動を終えてからということもあり、「その他」の業界を目指す者が多く見られる。職業選択枠の広い短期大学より専門学校の方が２年次の業界志望度合いが強いことがわかる。また、表２、表３から短期大学、専門学校のどちらにおいても幼少期から高校時代までの経験が志望理由となっている場合が、全体の60％以上を占めている。「結婚式に参加した」「ホテルを利用した」「アルバイト・インターンシップ経験」をまとめて施設利用者として考えると、施設利用の経験者が在校生の半数以上を占めているのだ。単年での調査では、「コロナ禍の影響を受けた学生が業界を志望し続ける在校生としてモチベーションを保てるのか」を立証する根拠とはならない。さらにコロナ禍でホスピタリティ業界への就職が困難であったことから、２年次の就職先業界を見るだけでは在校生のモチベーションを断言することはできないように思われる。

表２　短期大学学生の志望理由

履修コース	ブライダル	ホテル	ブライダル	ホテル
学年	1年	1年	2年	2年
回答者数	18	13	21	19
①入学時の志望業界				
業界	15	11	18	12
業界志望者の割合	83%	85%	86%	63%
その他	17%	15%	14%	37%
②志望理由（複数回答可）				
幼少期～高校時代の経験	14	10	16	13
②志望理由に占める割合	64%	77%	76%	59%
③理由の詳細（複数回答可）				
結婚式に参加して	5	3	9	0
ホテルを利用して	0	2	0	10
高校までのアルバイト・インターン	2	3	3	1
施設利用経験者の割合	43%	50%	60%	52%

表３　専門学校学生の志望理由

履修コース	ホテル	
学年	1年	2年
回答者数	31	3
①入学時の志望業界		
業界	31	
業界志望者の割合	91%	
その他	9%	
②志望理由（複数回答可）		
幼少期～高校時代の経験	31	
②志望理由に占める割合	78%	
③理由の詳細（複数回答可）		
ホテルを利用して	15	
高校までのアルバイト・インターン	4	
施設利用経験者の割合	54%	

比較資料としてはデータ数が少ないが、卒業生にも同様のアンケート[5]を行った。表４を見ると「幼少期から高校時代の経験から業界を目指した」という卒業生が多いことがわかる。施設利

用者の割合は現在と大きく変化はないようだ。変化は各教育機関の入学者数で見ていくことも必要だろう。

表４　卒業生の志望理由

履修コース	ブライダル	ホテル
回答者数	12	13
①入学時の志望業界		
業界	12	13
業界志望者の割合	100%	100%
その他	0%	0%
②志望理由（複数回答可）		
幼少期～高校時代の経験	11	12
②志望理由に占める割合	92%	92%
③理由の詳細（複数回答可）		
結婚式に参加して	5	2
ホテルを利用して	0	5
高校までのアルバイト・インターン	1	3
施設利用経験者の割合	50%	77%

２．２　良いイメージモデル、将来像が描けないまま就職意欲は湧くのか

表２のアンケート結果を見ると、ホテル業界志望者の志望理由の詳細には「ホテルを利用して」が多く見られ、比較するとブライダル志望者の志望理由の詳細には「結婚式に参加して」という理由が多く見られる。このことからも、入学前の体験がその職業の志望動機に大きく作用していることがわかる。やはり将来像となる良いイメージが必要なことが理解できる。

次に実際に授業を通じての所感を述べたい。７年前まで勤めていた専門学校や現在関係する専門学校での授業を担当している際には、専門学校入学志願者は既に目標の職業が絞られているため、ホテルでの宿泊経験、利用経験の中で職業への憧れを抱いた者が約８割、残りの２割は当時流行っていたドラマ「HOTEL」の影響を受けて入学してくる学生が多いと感じていた。志望職業が限られていることがデメリットとなり、インターンシップや授業を受ける中で進路変更や退学する者も多かった。

2014年度より短期大学で専門科目を担当している。宿泊体験、披露宴への参加経験、ドラマや映画等の影響で入学してくる学生も多く見られたが、「個人の性格に合うと感じた」、「高校の先生が勧めてくれた」という志望理由が見られるようになった。この数字に関しては前述したアンケート結果とほぼ同じと言える。

新型コロナ感染症拡大による緊急事態宣言前には、ホスピタリティ業界志望者に対して業界志望の理由として施設利用の有無を聞いていた。コロナ禍である昨年2021年度の入試では、修学旅行に関する質問を控えた記憶がある。高校２年次で修学旅行に参加していないことが多かったことへの配慮である。

３．今後の課題

外出が制限されている中では修学旅行や家族旅行、結婚式や披露パーティは実施されていない。つまり、ホスピタリティ業界を目指すきっかけとなる活動が制限されたわけである。このような状況下でも、ホスピタリティ業界の職種を希望して本学に入学してきている。今後、このホテル・ブライダルや観光の経験値の少ない学生、客としての良い経験の少ない学生が、業界を志望し続けるモチベーションを保てるのか。また、良いイメージモデルのないまま、将来像が描けないまま就職への意欲を抱くことができるのだろうか。

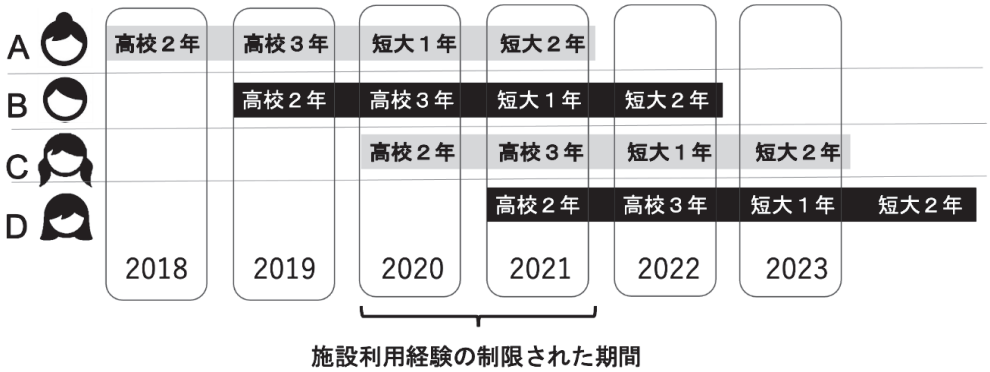

図７　修学旅行時期と入学時期

図７に修学旅行時期と入学時期をまとめた。旅行経験、宿泊施設等の利用経験を高等学校の修学旅行に限定して考える。修学旅行実施が高校２年次に多いとすると、Ａさんを含むそれ以前の学生には大きな影響は出ていない。Ｂさんが既に修学旅行を終えてから感染が拡大したとすると施設利用での大きな影響はないがＢさんの３年次の進路選択がコロナ禍であった。Ｃさん、Ｄさんは修学旅行が制限されている期間に高校２年生であったことから、経験値に影響が出る世代と

言える。観光業界が徐々に活気を取り戻してきている中、婚礼件数、宿泊稼働率が共に徐々に回復してきている。専門教育機関の就職状況を見ても状況は業界の人材不足の影響が良い方向に現れている。しかしながら教育機関として、今後、施設利用の経験値の少ない学生が進路としてホスピタリティ業界を選ぶのか心配される。業界志望学生数の回復までにはまだまだ影響が拭えないのかもしれない。

そう考えると、業界で活躍する人材を育てる立場である短期大学、専門学校にはまだまだ活気が戻るのに時間が必要なのかもしれない。ホスピタリティ業界志望者を受け入れる立場から考えると、次年度2023年度入学者に大きな影響が出ると考えられる。表11のDさん以降、2022年にも高等学校での修学旅行が制限されていたとすると2024年度入学者にも影響が続く。実際にアンケートを実施した短期大学、専門学校の2023年度に向けた入学試験出願者数は前年を大きく下回っているようだ。

また、専門学校、短期大学への進学を考え入学した学生がそのモチベーションを保ちつつ、業界への就職をする。そして、長く就業していくためには、企業の環境改善も必要である。せっかく業界に興味を持っても、進路としての魅力が感じられない場合、その後のキャリアとして捉えてもらえない。理想としては、「施設利用の経験→良い体験→職業としての選択→良い教育→就職→業界内でのキャリアアップ」であろう。

専門的な学びを志願する学生が減少することは、将来的に業界志望者が減少することを意味する。2022年11月より海外からの旅行者を含め、国内旅行者数が徐々に戻りつつある。この旅行者に対して接遇する者が不足する。インバウンドや旅行者が戻ってきた、活気付いてきたと単に安心していられない。中学生、高校生が業界との接点を持ち、つまり宿泊経験や結婚式出席経験から自分の将来像としての良いイメージモデルを築き、専門教育機関に進学した後にモチベーションを保ちながら業界に就職していくのか、引き続き今後の課題として見ていきたい。

注

1．臨時休校を要請する考えを表明するにあたり首相発言のポイントは以下の通り
　一、子どもたちや教員が長時間集まることによる感染リスクに備える
　一、全国すべての小中高、特別支援学校に３月２日から春休みまで臨時休校を要請する
　一、入試や卒業式などの実施は必要最小限の人数に限って開催するなど万全の対応を求める
　一、民間企業は休みがとりやすくなる環境を整え、子どもを持つ保護者に配慮してほしい

一、措置に伴って生ずる様々な課題に政府として責任を持って対応する
一、感染拡大を抑制し、国民生活や経済への影響が最小となるよう必要な法案を早急に準備する

２．埼玉女子短期大学紀要46号『ウエディング・ブライダル業界の近年予測－2021年度「ブライダル発表会」を振り返る－』2022年９月

３．表１、表２は、『教育旅行年報「データブック」2021』公益財団法人日本修学旅行協会，2021.
『教育旅行年報「データブック」2020』公益財団法人日本修学旅行協会,2020.を基に筆者が作成

４．アンケート対象：埼玉県内短期大学　ホテル・ブライダル科目履修者１年・２年　71名
東京都内観光系専門学校　ホテル科目履修者１・２年　34名
アンケート方法：Google formを利用して　無記名形式で2022年11月に実施

５．アンケート対象：埼玉県内短期大学　ブライダル科目履修の卒業生77名　有効回答12名
東京都内観光系専門学校　ホテル・ブライダル科目履修の卒業生87名
有効回答13名
アンケート方法：Google formを利用して　無記名形式で2022年11月に実施

参考文献

『日本経済新聞』 日本経済新聞社，2020年３月

『教育旅行年報「データブック」2020』公益財団法人日本修学旅行協会，2020.

『教育旅行年報「データブック」2021』公益財団法人日本修学旅行協会，2021.

須藤廣『ポストマスツーリズムの地域観光政策』公人の友社，2021.

野田健太郎・熊田順一『観光産業のグレート・リセット』中央経済社，2022.

齊藤彰「ホテル・ブライダル業界と感染症対策――企業対応を比較して――」『埼玉女子短期大学研究紀要』第42号，2020，pp.53-72.